

| | |
|------------------|--|
| ■ 支部だより ■ | |
|------------------|--|



東海・近畿・北陸支部だより

支部長 高 宗 潤 暁

東海・近畿・北陸支部は太平洋に面した和歌山県、瀬戸内海、大阪湾沿岸の兵庫県・大阪府、伊勢湾沿岸の愛知県・三重県、内陸部の京都府・奈良県・滋賀県・岐阜県、日本海に面した福井県・石川県・富山県の12府県と神戸市・大阪市・京都市・名古屋市の4市の合計16機関で構成されている。

その公害事情は瀬戸内海、大阪湾、伊勢湾および琵琶湖の閉鎖性水域の富栄養化等に関する諸問題や臨海コンビナート・原子力発電・火力発電等に関する種々の問題を抱えている。

まさに公害問題が集中した感を呈しているが、各機関それぞれの努力により技術的見地からの問題解決へのアプローチを図っている。

さて、次に最近（昭和56年度）における支部活動の概略をお知らせしたい。

1. 支部ブロック会議の状況

昭和56年度支部総会

日 時：昭和56年10月15・16日

会 場：福井県坂井郡芦原町・芦泉荘

★議題と情報交換について

- ア. 設備充実費補助について（環境庁への要望）—新規購入機器品目の拡大と基準単価の増額—
- イ. 環境測定分析統一精度管理調査の運営について（環境庁への要望）—調査実施時期の変更と実施期間の延長—
- ウ. 環境水質の検査分析方法の公定法化を望む（環境庁への要望）
- エ. 支部「水質部会」の開催について—第1回開催地、開催時期—
- オ. 支部研究所の所蔵洋書目録の発行について
- カ. 支部における研究会・討論会の開催について
- キ. 全国公害研協議会秋季総会の議題と環境庁発表会要領の一部変更について
- ク. a. 環境影響評価の具体例について承りたい。（できるだけ具体的に）

- b. 環境水の水質調査における生物調査に関する研究員の整備状況について承りたい。
- c. 汎用型コンピュータによる情報処理の現状と将来計画について。
- d. 公害防止技術開発研究の現状と将来計画について。

ケ. そ の 他

2. 水 質 部 会

支部総会（56年10月15日～16日、於福井）において「支部「水質部会」の開催について」という議題が討議された。内容は気象ならびに騒音部門においては各部門担当者間の情報交換や技術向上のために、支部としてそれぞれ研究会等を設けているが、水質部門は未設置である。そこで水質関係者が抱えている諸問題たとえば総量規制や工場排水試験方法の改正等の諸問題について、お互に情報交換ができるようにしたいという趣旨である。

総会で以上の趣旨が了承され、部会設立について同意されたが、支部で実施する前に近畿ブロックだけでも早急に開催してはどうかという意見が出され、提案県である大阪府が準備するよう要請された。

大阪府は以上の要請を受けて近畿ブロックとして最初の「水質部会」を開催した。

○近畿ブロック・水質部会

日 時：昭和57年1月27日

会 場：大阪府公害監視センター

★議題と情報交換について

- ア. 「水質部会」規約について
 - イ. 各機関における主要分析機器について
 - ウ. 57年以降における購入検討機器について
 - エ. 56年度調査研究の概要について
 - オ. 57年度の業務予定について
 - カ. そ の 他
- 以上の議題および情報交換が行われたのち、第1回の「水質部会」ということで参加者相互の親睦をはかるため、ささやかな会食があり、旧交が温められた。